

## 米国証券会社のアウトソーシングの動向

インターネットの普及、競争の激化、世界的規模での再編が進むなか、これまで自社開発が中心であった金融機関のシステム開発でも、外部のソリューションを採用するケースが増えつつある。本稿では、米国の証券会社のバックオフィスシステム分野でのアウトソーシングの動向を、その背景や課題とともに紹介する。

### 米国証券サービス業界の現況

米国の証券業界は競争が激化している。倒産と合併の結果、NASD（全米証券協会）の会員証券会社の数は、1989年の6100社から現在の5500社へと減少している。

また、インターネットの普及によって投資家の要求が厳しくなり、証券会社は競争に生き残るためにも、技術革新をテコに投資家にとってより魅力的な商品とサービスを継続的に提供する必要に迫られている。

### システムの課題

システム面では、

- 業務効率化のためのシステムの統合
- クロスボーダー（業際）取引への対応
- 増加する取引件数へのシステム規模拡大
- 単価小数点化やT+1（取引日翌日決済）など制度変更への対応
- 新商品開発の迅速化

などの課題を解決するために、現在の業務運用を全面的に見直し、システム部門やバックオフィス部門を再編成し、新たな技術を開発・適用していくことが必要となっている。

また、システム投資も年々増加しているため、従来どおり自社で開発するか、外部のソ

リューションを採用するかという選択も課題となっている。これに対し米国では、アウトソーシングを中心とする外部ソリューションが有力な解決策として注目を集めている。

### T+1への対応

アウトソーシングが注目されているもうひとつの理由はT+1への対応である。米国の証券業界では、2004年を目途に、約定日の翌日に決済するT+1を実現することが全体のスローガンになっている。SIA（米国証券業協会）が2000年7月にまとめた白書では、中・小規模の市場参加者に対して、T+1実現のための方策として外部へのアウトソーシングを推奨している。

T+1を実現するためには、自社だけでなく、取引先や顧客とのインタフェースも含めた業務プロセスの全面的な再構築が必須となる。これをすべて自前で行うのではなく、可能な業務プロセスを外部委託し、より付加価値のある商品やサービスの開発に資源を投入しようというのが大きな流れとなっている。

その背景には、現在STP（受注・受け渡しから決済までを自動処理するシステム）は差別化要因と考えられているが、2、3年先に

---

---

はグローバルマーケットでビジネスを行うための必須条件となり、これを自社で構築するより外部のソリューションを採用したほうが効率的だと考えられていることがある。

### バックオフィスシステムのアウトソーシング

証券取引処理などのバックオフィスシステムは、それ自身が収益を生むものではないが、顧客にサービスを提供していくうえで不可欠である。大手金融機関では自社でシステムの維持管理・運用を効率良く行っている例もあるが、準大手以下や欧州系金融機関を中心に、バックオフィス業務を標準的なシステムにするために、アウトソーシングするケースが増えている。これにより、

スケールメリットによるコスト削減

IT（情報技術）のエキスパートによるサービスレベルの向上

コアビジネスへの特化による競争力向上などの目標を達成している。

金融機関の世界規模での再編や競合のなかで、新商品をタイムリーに開発し、また個々のマーケットのルールに沿うために、継続的なシステムの更新が必要なことも、自社開発・運用から標準的なシステムへの移行に拍車をかけている。

これにより、投資家にとっては投資プロセスがシンプルで透明性の高いものになり、証券会社にとっても、顧客マネジメントや取引処理の合理化などにより、戦略的なプロジェ

クトへの人員配置が可能になることから、今後ともこの動きが加速する見込みである。

現在のところ、バックオフィスシステムのアウトソーシングは、大手アウトソーサーの上位3社程度による寡占状態であり、今後もこの状況に大きな変化はないと思われる。

### アウトソーシングの今後の動向

T+1など決済期間の短縮に向けては、アウトソーサーが先頭に立ち、競合他社との情報共有なども積極的に推進し、証券業界内で主導的な役割を果たす動きが見られる。

また、業務処理サービスをWebベースで提供するASP（アプリケーションサービスプロバイダー）も出てきた。これを利用すれば、専用のソフトウェアやハードウェアを保有しなくても、Webサイトにアクセスし、月額利用料金を支払うことで証券業務を行うことが可能になる。大手のアウトソーサーでもこのサービスを拡大する動きがあり、証券・金融分野において経験豊富で信頼のおける業界特化型のASPが普及するものと予想されている。

米国の証券・金融サービス業界では、変化する経営環境への対応が大きなテーマとなっている。アウトソーシングを積極的に活用する一方で、最新のIT技術を駆使した新商品・サービスをタイムリーに提供することによって、競争力の強化を図っていると見えよう。

（NRIアメリカ 草野民生）